

WANG 王 XIQI

王希奇

3m×20mの巨大画など 21点を一挙展示。

戦争ではいつも弱者が苦しむ。
彼らも戦争の犠牲者だ。
引き揚げ船に乗る数百人の日本人を
絵に残すのは私の義務だと思った—

王希奇

一九四六 米子展

2024年5月31日(金) → 6月4日(火) 10:00~18:00
(最終日は16時まで)

[会場] 米子市美術館 2階 第4展示室

〒683-0822 鳥取県米子市中町12番地 Tel.0859-34-2424

[入場料] 一般 1,200円(前売り1,000円) / 高校生以下 無料

■主催 王希奇「一九四六」米子展実行委員会

■協力 日本中国友好協会

■特別協力 城西国際大学(千葉県東金市)

■後援 中華人民共和国駐大阪総領事館、鳥取県、米子市、境港市、
鳥取県教育委員会、米子市教育委員会、米子市文化協議会、(一財)米子市文化財団、平和のための戦争展を成功させる会、
BSS山陰放送、中海テレビ放送、TSK山陰中央テレビ、日本海テレビ、テレビ朝日鳥取支局、朝日新聞鳥取総局、毎日新聞鳥取支局、
読売新聞鳥取支局、新日本海新聞社、山陰中央新報社

■賛同 山田洋次(映画監督・脚本家・演出家)、加藤登紀子(歌手・俳優)、ちばてつや(漫画家)

[お問い合わせ] 王希奇「一九四六」米子展実行委員会 TEL・FAX 0859-32-4868 / 新庄

Event

5月31日(金) 10:10 オープニングセレモニー

ワン・シーター
作者・中国人画家 王希奇氏 来館予定

※開催内容は、都合により変更になる場合がございます。予めご了承ください。

満州で少年時代を過ごしていた僕は、日本人が中国人に対して支配者のように



振舞っていたことをよく知っています。

だから、中国人である王希奇さんという画家が、縦3メートル横20メートルの大作を描いて、あの飢餓の中の日本人の悲惨な引き揚げを描き残すという大きな仕事をされたことに感動します。

山田 洋次

昨年、あの大きな作品の前に立った瞬間、私は六歳だった、引き揚げの行列の中に連れ戻されていました。

大陸特有の厳しい寒さの中で、お腹が空いて、身体中が痒くて、靴底が破れて足の指がちぎれるように痛くて…。でも、立ち止まることは許されず、必死で親の背中を追って歩き続けた、あの七十八年前の辛い引き揚げ体験。

でも、その旅の途中、父の親友だった中国人にこっそり屋根裏にかくまって貰った、温かい記憶も思い出して懐かしくなりました。

王希奇画伯に感謝です！

ちば てつや



王希奇氏略歴



画家。1960年、中国遼寧省錦州生まれ。

魯迅美術学院油絵学部に勤める。中国美術協会会員。東洋的墨絵の要素を西洋油絵に自然に融合させた画風で評価される。特に歴史をテーマとする創作を得意とし、その独特な画風とオリジナルな視点で国内外の注目を浴び、既存の流派に属さない独立した芸術家と評される。

代表作に国家金メダル賞を獲得した《三国志・赤壁の戦い》(合作)、中国国家重大歴史題材美術創作プロジェクト入選作品《長征》、《遼瀋戦役攻克錦州》(合作)、および《官渡の戦い》などの大型絵画がある。油絵のほか、墨絵の《回声》、《高原人》《雷に聴く》も全国美術作品展に入選。数多くの作品が中国美術館、中国国家歴史博物館、中国国家軍事博物館などに収蔵されている。近年では、2012年から17年にかけて葫蘆島港から105万人の残留日本人の大送還をテーマとした大作《一九四六》(縦3m横20m)をはじめ、関連するシリーズ作品計50点を制作した。

会場のご案内

■ JRご利用の場合

JR米子駅から約1,000m
JR米子駅前から各方面行きバス(除/松江方面)
米子市役所前下車(所要時間約5分)

■ お車の場合

米子自動車道・米子インターから約20分
(米子市役所有料駐車場をご利用ください。駐車カードを受付にお出しいただきますと2時間以内無料処理をします。)
※当館横に身体障がい者用2台・ハートフル駐車場2台を用意しています。



王希奇 WANG XIQI

戦争ではいつも弱者が苦しむ。

彼らも戦争の犠牲者だ。

引き揚げ船に乗る数百人の日本人を

絵に残すのは私の義務だと思った――

王希奇

一九四六

米子展

2024年5月31日(金) → 6月4日(火)

米子市美術館 2階 第4展示室

MESSAGE

満州で少年時代を過ごしていた僕は、日本人が中国人に対して支配者のように振舞っていたことをよく知っています。

だから、中国人である王希奇さんという画家が、縦3メートル横20メートルの大作を描いて、あの飢餓の中の日本人の悲惨な引き揚げを描き残すという大きな仕事をされたことに感動します。



山田 洋次

昨年、あの大きな作品の前に立った瞬間、私は六歳だった、引き揚げの行列の中に連れ戻されていました。

大陸特有の厳しい寒さの中で、お腹が空いて、身体中が痒くて、靴底が破れて足の指がちぎれるように痛くて…。でも、立ち止まることは許されず、必死で親の背中を追って歩き続けた、あの七十八年前の辛い引き揚げ体験。

でも、その旅の途中、父の親友だった中国人にこっそり屋根裏にかくまって貰った、温かい記憶も思い出して懐かしくなりました。

王希奇画伯に感謝です！

ちば てつや



王希奇「一九四六」米子展実行委員会 共同代表 杉原 弘一郎

一般財団法人米子市文化財団理事長

この度、米子市美術館において王希奇さんの展覧会を開催できることを、本当に嬉しく思います。終戦後、葫蘆(ころ)島からの引揚げ船に乗るために、列をなす人びとが描かれた超大作《一九四六》—縦3m、横20mもあるキャンバスに数百人を描くということは、それだけの技術、気力と体力がなければできません。そのことに私は、王さんの、静かな炎のような執念を感じます。

このたび展覧会の巡回にあたり、吉林で生まれ3歳で引き揚げてきた私自身も、当事者のひとりとしてぜひ関わりたいと思い、こうして開幕の日を迎えることができました。

王さんは、本作の資料となった写真に写るひとりひとりと向き合われ、帰国が叶わなかった人々の魂も、蛍の光として表現されたそうです。ご来場のみなさまには、どうぞじっくり画面に向き合い、78年前の人びとに思いを馳せながらご覧いただきたいと思います。



王希奇「一九四六」米子展実行委員会 共同代表 高橋 敬幸

日本中国友好協会米子支部長、元日本弁護士連合会副会長

日本は1945年8月に敗戦し、中国東北部である満州には約150万人の邦人が取り残され、仕事も住む家も失い、日本に逃げ帰ることになりました。実質的には強制送還です。難民となり、食糧難から栄養失調となり疾病が蔓延し多くの命が失われました。今のガザ、ウクライナ、ミャンマー(ビルマ)などの難民と同じです。

葫蘆島からの送還・引揚げは1946年5月7日から開始され、同年末までに101万、1948年までに総計105万人が送還されました。

逃避途中で送還前に亡くなった日本人難民の惨状に関する写真や映像が殆ど無い中で、命からがら葫蘆島に辿り着いて引揚げ船に向い列をなす数百人の日本人難民を描いた絵が「一九四六」です。

この絵は城西国際大学が保管し、初めての展覧会が2017年に東京美術倶楽部で行われ、その後、2018年に舞鶴引揚げ記念館、2019年仙台、2021年高知、2022年神戸、2023年に東京と満蒙開拓平和記念館(長野県)で行われました。

コロナ禍のため、神戸、東京などでの展覧会に行かれなかった人もおられたと思います。5類移行となり、多くの方に見て頂きたいと、実行委員会を結成してここ米子で、中国・九州地方で最初の展覧会を企画しました。

1946年といえば、女性が初めて参政権を行使する衆議院選挙が実施され、新憲法を審議する帝国議会が開かれ、11月3日に日本国憲法が出来ました。日本国憲法は、第九条で、武力による威嚇を含めて一切の戦争を放棄し、陸海空軍の不保持、交戦権否認を決め、前文で「全世界の国民が、ひとしく恐怖と欠乏から免れ、平和の内に生存する権利を有することを確認」し、「日本国民は、国家の名誉にかけて、全力をあげて崇高な理想と目的を達成することを誓う。」と決意しました。

日本中国友好協会は、日中の政府の政策・意向に関わらず、民間の草の根レベルで相互理解・友好・平和実現のために活動する団体です。この絵を見て頂いた方が各々の受け止めかたをして頂き、それが今後の世界の平和に、戦争をなくすことに繋がるとすれば、実行委員会としてこれ以上の喜びはありません。



王希奇

私は歴史写真を収集する習慣があります。歴史写真が大好きなのです。過ぎ去った時間には特別の感傷を覚えますし、過ぎ去った日々は美しいと思います。経験したことのない過去の年月において当時の人たちはどのように生きどんな状況だったのかを知りたいと思います。また、その時私はどこにいたのか

を、常に自分に問いかけてきました。私は、自分の視覚の命を延ばすには、これまでのことを掘り起こさなければならぬと思います。

ある日、私はネットで、男の子があるものを胸に抱えている1セットの写真を見つけました。その時は、何が包まれていたのか知りませんでしたが、ただ男の子の恐怖の表情がとても印象深いものでした。調べていくうちに、それは1946年に起きた事件であったことを知り、それが当時撮影された写真だと分かりました。その後、私は何度もその他の資料と歴史写真を調べ、遠く歴史の埃に埋もれそうになったこの歴史を知りました。またその残酷さを身に染みて感じ取りました。

この「一九四六」の創作には、3年半の時間がかかりました。この期間は、作品を覆して再構築しそしてまた覆して再構築するを繰り返していました。まさにこの絵を創作する過程も、引き揚げを体験したような大変つらい過程でした。

この「一九四六」という歴史題材について、私は「移動式」という鑑賞の仕方を取りました。歩きながらこの作品を見ていただきたいのです。人は物事を考える際、無意識に歩き出すことがあります。歩き出すと、考えることにプラスになるようです。その場合、画面から大量の情報を読み取ることが求められてくると思います。私は、中国壁画の表現様式、長幅式の表現様式をとり、最終的に絵を長さ20メートル、高さ3メートルに決めました。絵の高さは、見る人が画面の外側にいるか或いは画面の中に入るかということ左右します。私は皆さんに、この歴史の現場に入り込み、左から右へ移動しながら見ていただきたいのです。

この「一九四六」を創作する過程において、全体的情緒の把握が非常に重要だと思いました。画面の色彩、見る側のリズム、光の配置などを考慮し、特別な手法を用いました。いわゆる科学による光線の配置手法をとらず、私自身の理解した「ホタル」式の光の手法を取りました。個々の人物自身の放つ光を通じて、人々が生き残ろうとして現れてきた生命の強さを表現したいと思いました。

私は、絵画の「読みこなし」も大切だと考えます。それによって、小説と同じように、一文字、一センテンス、一段落をじっくり読むことによって、最終的に作品全体から何かを感じ取ることができると思います。

私が絵を見た皆さんに伺いたいのは、絵そのものの良し悪しに関するのではなく、この作品から感動を覚えていただけたかどうかということです。

(翻訳責任 高橋敬幸)

京都府立京都学歴彩館顧問・京都府立大学元学長 井口 和起
福知山公立大学名誉学長・京都大学博士(文学)

王希奇画伯との出逢い

畏友王希奇画伯(魯迅美術学院教授)と歓談したのは、12年前奥方の王秋菊さん(中国東北大学教授)は日本文化の研究者だったから、私は27年余も前から存じ上げていた。その秋菊さんが通訳も兼ねて希奇さんの取材活動で舞鶴引揚記念館にこられたのが、2012年の4月だった。日本近現代史の研究者で地元京都府の出身でもあった私はこれに同行し、大作にかける希奇さんの熱意と思索に深く感じ入った。

2015年3月、王さんご夫妻の案内で私たち夫婦は葫芦島を訪ねた。私は1980年代の前半に訪れたこともあったのだが、その時とはずいぶん岬の様子は変わり、軍の施設となっていたので、岬までは行けなかった。

希奇さんが「日本僑俘遣返之地」碑の立つ小高い丘から引揚船が出港した岬を遠望しながら私に尋ねた。「井口さん、子どもの泣き声が聴こえてきませんか」。私が黙っていると彼は続けてこう言った。

「僕にはいつも聴こえてくるのですよ」。希奇さんにはこの作品の中に描かれた泣く力さえ失って母親の腕の中で息を引きとった幼子の魂の泣き声が聞こえてくるのだろう。

戦争という人類最悪最大の愚行を、決して繰り返してはならないという希奇さん自身の声とその声に重なる。

この絵に向かいどんな言葉を語れば良いのか、私はこれからも考え続けるだろう。

「満洲国」と満蒙開拓について

日本の関東軍は武力による満洲制圧を企てて1931年9月18日南満洲鉄道の奉天近郊の線路を自ら爆破して柳条湖事件を引き起こし、これをきっかけに中国軍を攻撃して「満洲事変」(中国では九・一八事変)と呼ばれる戦争を始めた。時の政府は事変の不拡大を内外に声明したが、関東軍はこれを無視して軍事行動を拡大し、ほぼ半年ほどで満洲の主要地域を占領し、1932年3月、清朝最後の皇帝だった溥儀を執政に迎えて満洲国の建国を宣言した。しかし、軍事、外交ばかりか内政の実権も関東軍や日本人官吏がにぎっていたから、満洲国は日本の傀儡国家であり、満洲地域は日本の植民地的支配下に置かれた。この「満洲国」へ日本の「国策」として送り込まれた「満蒙開拓団」が、日本による侵略と植民地支配を目指す「国策」に他ならなかったことも明らかにされ、定説となっている。

この作品の伝えたいこと

私はいま日本国憲法の前文を思い起こしている。憲法前文は「政府の行為によって再び戦争の惨禍が起ることのないようにすることを決意し」、「日本国民は、恒久の平和を念願し、人間相互の関係を支配する崇高な理想を深く自覚するのであって、平和を愛する諸国民の公正と信義に信頼して、われらの安全と生存を保持しようと決意した」と明言して戦争放棄の第九条を掲げている。

王希奇さんは、この作品を通じて「恒久の平和を念願し、人間相互の関係を支配する崇高な理想を深く自覚」している中国人の一人として「平和を愛する諸国民の公正と信義」を示し、私たちの「信頼」に応え「平和を維持し、専制と隷従、圧迫と偏狭を地上から永遠に除去しようと努めている国際社会」の実現に向かって共に力を尽くしていこうと私たちに呼びかけ、勇気づけてくれているのだと私は思う。

とはいえ、まだ世界は現代のあらゆる先端技術を駆使して大国がその「国益」や「国策」を推し進めようとする「覇権主義」が力を持っている。最近には特にそれが大きくなっているようにさえ見える。そのため、覇権主義的力を持たねば対抗できない、軍事力を強化しないと国の安全は保てないぞという声が高まる様相を示している。しかし、国際社会が互いに軍事力の強化で国の安全を保とうなどとしては危険な迷路に迷い込むだけである。それだけに「人類普遍の価値」を改めて再確認し、そのための学びを続けてほしい。

私も、最終的な「正答」に達することは多分出来ないかも知れないと判りつつも、この作品の問いかけに応える仕事を生涯続けていくほかないと思っている。



王希奇氏略歴

画家。1960年、中国遼寧省錦州生まれ。魯迅美術学院油絵学部に勤める。中国美術協会会員。東洋的墨絵の要素を西洋油絵に自然に融合させた画風で評価される。特に歴史をテーマとする創作を得意とし、その独特な画風とオリジナルな視点で国内外の注目を浴び、既存の流派に属さない独立した芸術家と評される。

代表作に国家金メダル賞を獲得した《三国志・赤壁の戦い》(合作)、中国国家重大歴史題材美術創作

プロジェクト入選作品《長征》、《遼瀋戦役攻克錦州》(合作)、および《官渡の戦い》などの大型絵画がある。油絵のほか、墨絵の《回声》、《高原人》《雷に聴く》も全国美術作品展に入選。数多くの作品が中国美術館、中国国家歴史博物館、中国国家軍事博物館などに収蔵されている。近年では、2012年から17年にかけて葫蘆島港から105万人の残留日本人の大送還をテーマとした大作《一九四六》(縦3m横20m)をはじめ、関連するシリーズ作品計50点を制作した。

	作品名	制作年	素材・技法	サイズ
1	一九四六	2012~2015年	油彩、キャンバス	300cm×2000cm
2	一九四六 見守る海1	2017年	油彩、キャンバス	200cm×840cm
3	一九四六 見守る海2	2017年	油彩、キャンバス	200cm×840cm
4	叫びの海	2017年	油彩、キャンバス	200cm×280cm
5	一瞬の海1	2017年	油彩、キャンバス	80cm×120cm
6	一瞬の海2	2017年	油彩、キャンバス	80cm×120cm
7	一瞬の海3	2017年	油彩、キャンバス	80cm×120cm
8	一九四六 帰路1	2013年	油彩、キャンバス	80cm×120cm
9	一九四六 帰路2	2013年	油彩、キャンバス	80cm×120cm
10	一九四六 帰路3	2013年	油彩、キャンバス	80cm×120cm
11	一九四六 帰路4	2013年	油彩、キャンバス	80cm×120cm
12	一九四六 帰路5	2013年	油彩、キャンバス	80cm×120cm
13	一九四六 帰路6	2013年	油彩、キャンバス	80cm×120cm
14	記憶1	2014年	油彩、キャンバス	80cm×120cm
15	記憶2	2014年	油彩、キャンバス	80cm×120cm
16	記憶3	2014年	油彩、キャンバス	80cm×120cm
17	記憶4	2014年	油彩、キャンバス	80cm×120cm
18	記憶5	2014年	油彩、キャンバス	80cm×120cm
19	記憶6	2014年	油彩、キャンバス	80cm×120cm
20	記憶7	2014年	油彩、キャンバス	80cm×120cm
21	一九四六の下絵	2012年	紙、墨ほか	20cm×142cm



朝鮮半島日本列島の使命

日本の縁結びから世界の縁結びへ 健康 環境 平和はひとつ



ガザ地区子供達から

星は竹島



ユーラシア大陸から見た日本



円成寺住職 若月様を祭主に護摩祈禱
全国世界水の偉人172人の名前 功績を灯籠に記し
「水と火と健康寿命の聖地」を全国 世界に発信

八雲立つ出雲から和議で

対立の文明から共生の文化へを提唱

3大核大国がぶつかる日本列島と朝鮮半島は
人類覚醒のさきがけを務める世界縁結びの地

地球誕生 地政学から

創造繁栄破壊を繰り返す人類史を

戦前 戦中 戦後責任に分け

未来を拓く 国是を研究

宍道湖 中海 大山圏は

政党 国民国連が生まれる

特別な天命を担った地域

資本主義から智本主義へ

正義から道理へ歩いた後に道ができる

創業五〇年 小松電機産業

設立三〇年 人間自然科学研究所

会長兼社長 小松昭夫



ホームページ

人間自然科学研究所 小松電機産業



おはようサンデー
2022年9月4日放送
「一九四六」神戸展について

社 是 事業を通じて世界に喜びの輪を広げよう
経営理念 おもしろおかしくたのしくゆかに 行動指針 三方よし 先義後利

TEL 0852-32-3636
松江 東京 大阪 ソウル バンコク

大和 太極拳同好会

〈毎週火曜日〉 午前10:30~12:00
●淀江大和公民館で練習しています。

尚徳 太極拳同好会

～仲間大募集!～

〈毎月3回練習(木曜)〉13:30~15:00

宇田川 太極拳同好会

■毎週水曜日 ■10:15~11:45

宇田川公民館で練習しています。

成実 太極拳同好会

【毎週金曜日】PM1:30~3:00

ゆっくり・ゆったり

学ぶ 遊ぶ つながる みんなの広場
Chukai コムコムスクエア

舞踊教室

新舞踊 光佳流

楽しく踊りましょう

光佳流 師範 光佳 龍啓

書道教室

文月書道教室

書道を習ってきれいな字を
書いてみませんか?
さっと自信をもって
書けるようになります。 田邊素子

あなたのパートナー

有限会社

プラッサ会計事務所

〒683-0052 鳥取県米子市博労町4丁目48

TEL(0859)33-9015 FAX(0859)33-9199

よなご日野郡人会

御机の茅葺小屋から南大山をのぞむ



株式会社

Joy Garden

TEL(0859)21-7437

造園工事・庭木剪定・石工事
解体業・産業廃棄物収集運搬



Peace

弁護士

高橋 真一

弁護士

高橋 敬幸

War is not the answer

高橋敬幸法律事務所

<https://takahashi-law.site/> 鳥取県弁護士会所属

米子市東町410 ■TEL 34-1996 ■B型肝炎相談専用TEL 30-2002

中古住宅・マンション・土地・アパート 快適ライフのお手伝い

イチエイ

住まいの情報ターミナル

一栄不動産開発株式会社

米子店

米子市茶町63-1 イチエイビル1F(米子駅前通り)

<http://www.ichiei-f.jp/>

TEL0859-33-0088

松江店

松江市東朝日町626-4(イオン松江店前 JR高架下)

<http://www.ichiei-f-matsue.jp/>

TEL0852-20-7788



なかうみ総合法律事務所

弁護士 百毛 公平

米子市錦町3丁目33番地 TEL(0859)46-0193

<https://nakaumi-law.com>

HAIR PRODUCE

Revie

〒683-0845

米子市旗ヶ崎2丁目13-28

☎0859-21-8355





信頼と実績で
安心のトータルサポート

365日・24時間受付 ☎ 0120-444-200



富乃建創
トミノケンソウ

まごころの住宅なんでも屋さんで
リフォーム工事、新築工事、外構工事、塗装工事
住まいのお困りなんでもやります!

代表 坂田 将一 Sakata Shoichi

〒689-3552 鳥取県西伯郡日吉津村富吉1211番地10
【TEL】090-9410-0408 【E-mail】j.nandemoyasan@gmail.com



足立珠希法律事務所

ADACHI TAMAKI LAW OFFICE

弁護士 足立 珠希 (鳥取県弁護士会所属)

〒683-0824 米子市久米町45
TEL 0859-21-8123

●親身にお伺いいたします。お電話でご予約ください。 <https://www.adachi-law.net/>



総合建設業 [鳥取県知事許可 第002574号]



株式会社 稲田組

代表取締役 稲田 耕

日野郡日野町高尾238番地
■TEL 0859-72-1245 ■FAX 0859-72-1266
■E-mail int.ltd@sea.chukai.ne.jp

香取開拓農業協同組合

〒689-3316

鳥取県西伯郡大山町豊房2025番地

■TEL 0859-53-8228



会員募集中!ボクシングで健康!!

SUGAR®

シュガー・タックルボクシングジム

〒683-0824 米子市久米町253 YSP2F 【TEL】0859-22-8567



株式会社 城見機工

機械据付・配管工事・電気工事・機械加工・機械保守点検一式

代表取締役
社長 立脇 功二

【本社】〒670-0831 兵庫県姫路市城見町71
■TEL 079-223-0463 ■FAX 079-222-3075
■携帯 090-2193-9535
E-mail koji-tatewaki@shiromi-shoji.co.jp

株式会社 城見商事

代表取締役 立脇 功二

〒683-0851 米子市夜見町3057番地
TEL 0859-21-1463 FAX 0859-21-1493
携帯 090-2193-9535
E-mail koji-tatewaki@shiromi-shoji.co.jp



株式会社 中海葬儀社

祈りを込めて真心のご奉仕
事前相談・予約はお気軽に ☎0120-34-0983

取締役顧問 小野 政彦

メモリアルホール

米子・境港・安来・東出雲

【本社】〒699-0101 鳥取県松江市東出雲町損屋17番地3
TEL 0852-53-0983 FAX 0852-52-7755

【支社】〒683-0851 鳥取県米子市夜見町2970番地5

TEL 0859-22-0983 FAX 0859-22-0993

<https://www.chukaisougi.jp>

家族葬ホール
Danran



株式会社 TSK

建設業登録番号 鳥取県知事許可(般-27)第7107号
宅地建物取引業 鳥取県知事免許(1)第1364号

代表取締役 関 徹
seki-tofu

〒6893425 鳥取県米子市淀江町佐陀2128番地
TEL 0859-30-4431 FAX 0859-30-4432
携帯 080-5232-2333



おーるど

花うた

〒683-0814
鳥取県米子市尾高町132

☎0859-33-1728

☎090-713-4050

大木 隆

梶野 浩一

佐伯 憲昭



弁護士法人

アザレア法律事務所

弁護士 杉山 尊生

弁護士 井木 博子

弁護士 小原 武史

弁護士 田村 真一

弁護士 北村 仁 (鳥取県弁護士会所属)

弁護士 高橋 洋徳 (第二東京弁護士会所属)



米子

米子市加茂町2-112 第8MJビル3F

0859-23-2250

http://www.azalea-law.net/

未来の子どもたちに、安心してらせる国を残そう。

戦争をやろうっていう人なんか
ぼくたち許せないよね。(コムコム・子どもの声より)



平和が一番

新日本婦人の会 米子支部 淀江班

麺のことならお任せください
～境港生まれ境港育ちの麺屋さん～

麺屋 やまもと

有限会社山本製麺所

〒684-0013 鳥取県境港市朝日町66
TEL: 0859-42-2408 FAX: 0859-42-2448
Mail: yamamoto-seimensyo@outlook.jp
HP: https://menyayamamoto.com/



大型医療施設・幼稚園
給食事業部



米子のご宴会場
味屋プラザ

味屋コーポレーショングループ

味屋 検索



ホームページ20年の実績

ホームページ制作・システム開発・webセキュリティ診断サービス

お気軽にご相談ください <ご相談無料>

東京印刷株式会社 TOKYO PRINTING Co., Ltd.
米子・鳥取・松江・境港・安来・倉吉・東京
https://tokyop.com

- ☑ 総合印刷
- ☑ デジタル印刷
- ☑ グラフィックデザイン
- ☑ 看板・サイン・POP
- ☑ ホームページ・システム開発・電子書籍・インターネット広告・LP制作
- ☑ テレビCM・ラジオCM・新聞広告・雑誌広告・交通広告
- ☑ ドローン撮影
- ☑ イベント計画の立案実施
- ☑ 販売促進計画の立案実施
- ☑ 市場調査の立案実施

見るだけでも本当に楽しい!

西日本最大の紙の専門店

2,000種以上の品揃え!!

松江に素敵なお店が出来ました。
ぜひ一度ご来店下さい。

包装紙、リボン、バースデーカード、ウェディングカード、ポストカードギフトBOX、和紙、手摺袋、便箋、封筒、色紙、葉書、一筆箋、OA用紙、千代紙、折紙、ウェディング案内状、原表、ゲストブック etc...

PAPER LIBRARY KATO

株式会社 加藤紙店1F (お電話は加藤紙店が)

〒690-0048 松江市西線島1-4-14 TEL:0852-22-1221 FAX:0852-27-5896 AM10:00~PM6:20

GOOD TOMORROW GODO
印刷へ、新しい風を。

合同印刷機材株式会社

本社 〒733-0833 広島市西区商工センター4丁目13-3
TEL (082)277-8822 FAX (082)277-8828
米子営業所 〒683-0853 米子市両三柳2371-7
TEL (0859)34-3500 FAX (0859)34-3501

日本写真出版

〒683-0845

鳥取県米子市旗ヶ崎2218番地
(有)米子プリント社内



結果につながる印刷

米子プリント社は印刷物製作のプロフェッショナル。

お客様の伝えたいことに寄り添い、あらゆる制作物をご提案します。

- チラシ DM
- 名刺・封筒 伝票
- 会社案内 リーフレット
- 冊子・書籍
- 圧着DM
- ポスター
- ラベル シール
- ノベルティ

JUST IN TIME 有限会社 **米子プリント社**

〒683-0845 鳥取県米子市旗ヶ崎2218番地
TEL.0859-22-2155 FAX.0859-22-2157
営業時間: 8:40~17:10 (土日・祝日除く) 米子プリント社



太田法律事務所

弁護士 太田 正志

〒689-3402 米子市淀江町淀江512番地5

TEL 0859-37-4088 FAX 0859-37-4089



いい水と暮らそう

CreCla

クリクラ 山陰



安心安全なお水をお届け。

0120-840-966



株式会社
TAMAYA



日本中国友好協会

米子支部 太極拳
指導員一同



日本中国友好協会

米子支部 中国語教室

【連絡先】 米子市三本松4-9-9 TEL 0859(32)4868

木のぬくもりをそのままに。四季と暮らす家づくり。

有限会社 **西田建設** 西田建設設計事務所
米子市旗ヶ崎2309

TEL.0859-29-2809 FAX.0859-29-7138

西田建設 米子 検索



夢をひらき 未来を織る

日宝綜合製本株式会社

〔米子事業部〕

米子市陰田町650

TEL (0859) 23-2800(代) FAX (0859) 23-3461

〔本 社〕

岡山市今在家197-1 TEL 岡山(086)275-6600(代)



ぶっくん

習得するには

日本一難しいと云われますが、

ご存じでしょうか？

認知症予防効果も

日本一です！

事務局

TEL 080-6307-3540

山陰

花扇会



測量機 販売・修理・校正

有限会社 楠計量機

販売 測量機・理科機器・製図機器
修理 計量機・硝子器具・ラベルプリンター

代表取締役 楠 明彦

〒683-0832 米子市立町4丁目163番地
TEL (0859) 22-4089 FAX (0859) 22-5834
E-mail: e-hakari@space.ocn.ne.jp

(順不同)

協賛広告を掲載して頂きました皆様、
本当にありがとうございました。



王希奇 ワン・シーチー 一九四六 米子展



■主催 王希奇「一九四六」米子展実行委員会

■協力 日本中国友好協会

■特別協力 城西国際大学(千葉県東金市)

■後援 中華人民共和国駐大阪総領事館、鳥取県、米子市、境港市、
鳥取県教育委員会、米子市教育委員会、米子市文化協議会、
(一財)米子市文化財団、平和のための戦争展を成功させる会、
BSS山陰放送、中海テレビ放送、TSK山陰中央テレビ、日本海テレビ、
テレビ朝日鳥取支局、朝日新聞鳥取総局、毎日新聞鳥取支局、
読売新聞鳥取支局、新日本海新聞社、山陰中央新報社

■賛同 山田洋次(映画監督・脚本家・演出家)、加藤登紀子(歌手・俳優)、ちばてつや(漫画家)

【お問い合わせ】王希奇「一九四六」米子展実行委員会 TEL・FAX 0859-32-4868 / 新庄